No.138
2019
Autumn

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication

CONTENTS

八戸工業大学

p2−3　第 2 回 HIT-ENU 科学フォーラム／田中教授、国際交流授業／第47 回学園祭／空き家プロジェクト／ドクターヘリ、ランデブーポイント完成

p4−5　卓球部／ソフトテニス部／バレーボール部／八戸市 90 周年、アプリ開発／「八戸イカの日」／新任教員紹介／サークル紹介剣道部／公開講座実施

p6−7　はちのへオープンイノベーション・プラットフォーム発足／システム情報工学科20周 年／彩才祭／故増田先生叙位叙勲授与／修学支援新制度／保護者懇談会／自販機リニューアル／体育館耐震工事進行中／2020 年度入試日程／進学相談会／11〜1 月主な日程

さくら幼稚園

p8−9　えがおキラキラ　ゆめいっぱい !!

p10−11　なかよしさい／卒園児からのメッセージ／ようちえんってこんなところ／とらんぽりん

八戸工業大学第一高等学校

p12−13　体育祭／体験入学／部活動体験・見学／全国高等学校総合体育大会／全国高等学校総合文化祭／三八地域人材育成事業／ドローン講習会／八戸市総合防災訓練／性教育講座

八戸工業大学第二高等学校

p14−15　全国高等学校総合文化祭／読書ワークショップ／男子硬式テニス／鮫地区観光ボランティア／八戸工大 SS P ／独占禁止法教室／ SC 頭脳選手権／南部せんべい商品開発／インターンシップ／美術コース秀作展／高 P 連文部科学大臣賞受賞

八戸工業大学第二高等学校附属中学校

p16　第 1 回校外学習／中学英語弁論大会 3 位／科学の甲子園ジュニア県大会

p16　ブランディング寄付事業／理事会・評議員会

Mobile & iPhone & Android
◀◀◀モバイルサイトへアクセス

第２回HIT-ENU 科学フォーラムの開催

9月23日～29日、第2回 HIT-ENU 科学フォーラム（THE 2ND HIT-ENU SCIENTIFIC FORUM）が開催され、前半の23日～25日は八戸市で、後半の26日～29日は東京都を中心に各行事が行われた。本科学フォーラムは、昨年度のカザフスタン共和国のアスタナ市（現ヌルスルタン市）・アルマトイ市で開催された第１回 ENU-HIT 科学フォーラムに続くもので、八戸市市制施行90周年事業の一環でもある。第２回目にあたる日本開催では、カザフスタン共和国からアスカル教授（Prof. Askar Zhussupbekov、Director of Geotechnical Institute of L.N. Gumilyov Eurasian National University、President of KGS）をはじめとする９名の参加を頂き、全体で約50名の参加となった。

1日目、開会式では両大学からと小林眞八戸市長の挨拶に続き、本学大学院留学経験があり、本学と ENU との懸け橋として尽力されたアスカル教授に、長谷川明学長より栄誉教授記が授与された。続いて出席者による学術講演会、留学生を含む本学学生（大学院生6名、学部生3名）によるポスターセッション、HIT キャンパスツアーが行われた。

ホテルでの歓迎会では本法人柳谷利通理事長も出席し、Prof. Assemgul Moldazhanova 副学長らと一年振りの再会を歓びあった。

2日目、テクニカルツアーとして青森県内を視察、コンクリート2次製品メーカー工場見学（㈱技研）、青ブナ山トンネル工事現場見学会（国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所）、八戸市景勝地散策が行われた。

カザフスタン共和国の参加者からは、いずれの行事も素晴らしく非常に興味深いもので、実に有意義なフォーラムであったとの感想を頂いた。

最後に、“次回開催に向けて準備をしましょう”とコメントを残され、帰国されたのが印象深かった。（事務局長　土木建築工学科　准教授　橋詰　豊）

※ ENU：カザフスタン共和国国立ユーラシア大学
※ KGS：カザフスタン地盤工学会（Kazakhstan Geotechnical Society）

栄誉教授記　授与

ENU第一副学長と八戸市長

学術講演会

パネルディスカッション

アスカル教授　ENU 第一副学長　理事長　学長

記念写真

国際臨海実習 in Hokkaido

８月１日・２日、北海道大学厚岸臨海実験所において、外国人大学院生向けの臨海実習「Hokkaido サマーインスティテュート事業、統合的海洋生物学・生態学実習Ⅱ」の講師を務めました。

インドネシアの水産庁・ボゴール農科大学、タイのカセサート大学、ドイツのキール大学、フィリピン大学などから参加した国際色豊かな受講生（写真）の皆さんに、地域固有種（日本海の周辺海域だけに分布する珍しい種）も含む海草の分布、水深や塩分などの環境要因との対応関係の観察、植物が発する蛍光を利用した海草の光合成を測定して、野外における各種の分布パターンとの整合性を検証してみる実験にも取り組んでもらいました。本実習には、私が参画している JICA-JST の国際協力プログラムにおけるカウンターパートもインドネシアやフィリピンから参加してくれました。

仲岡雅裕所長をはじめ北海道大学厚岸臨海実験所の皆様には、講義の機会を与えていただいたこと、また諸々のサポートをしていただいたことに感謝いたします。

また、９月にはこの実験所において、八戸工業大学「海洋学プログラム」の一環として、本学の学生が、北海道大学やそのほかの学生達と合同で実施する「臨海実習」が開催されました。（生命環境科学科　教授　田中　義幸）

第47回八戸工業大学学園祭～ Unique ～

10月12日、学園祭が開催された。台風19号の影響を受け日程を変更しての開催ではあったが、雨の中多くの皆さんが来場し、賑わっていた。研究室では、自動車用塗料の噴霧にかかる液体の微粒化実験をはじめ、学生が思い思いに趣向を凝らした紹介がされた。部や愛好会ではドローン操縦体験、カードマジック・カフェ、八戸観光鉄道ジオラマほか、ステージ発表もおこなわれた。

空き家リノベーション

９月10日、学部をこえた学生と地域の交流拠点の形成に向けた「空き家リノベーションプロジェクト（仮称）」のキックオフが八戸市内丸の空き家で行われた。

この夏、苦労した活動拠点物件探しは、八戸市内丸地区自治会長等にご協力いただき無事に解決した。今後は、教員と学生とで物件のリノベーションに向け設計・施工に取り組んでいく。リノベーション作業の過程は地域に公開し、同時に地域の方々に参加していただきながら学生を中心に具体的な活用に向けての市民ワークショップを行っていく予定である。

現在、プロジェクト推進に向け皆川俊平講師（感性デザイン学部創生デザイン学科）、西尾洸毅助教（工学部土木建築工学科）、そのゼミ学生が中核となって活動しており、一緒に活動してくれる有志を募集している。

ドクターヘリ、ランデブーポイント完成

八戸市鮫町大久喜漁港にドクターヘリが着陸する際、上空から目標となるランドマークが完成し、７月22日、八戸市立市民病院救命救急センター野田頭達也所長を始めとする関係者が集まり、現地で完成報告会が行われた。

沿岸部における救急・災害時の患者搬送等をより迅速に行うため、救急車とヘリが正確に合流できる地点（ランデブーポイント）が必要とのことで、ドクターカーＶ３共同開発で縁のある本学が制作に着手、機械工学科自動車工学コースの学生が昨年12月から取り組み、今年６月に完成した。

ランドマークは、写真に写る学生と白文字「久」（大久喜漁港の「久」）との比較からもその大きさが予想できるが、一文字が15m四方の白い枠で囲まれており、上空200～300mからでも目視で確認できる。

卓球部、東北１部リーグ準優勝

卓球部の活躍が続いている。

- 第89回全日本大学総合卓球選手権大会が７／４～７、愛知県スカイホール豊田で開催され、団体の部で予選を突破し決勝トーナメント（全国32校の大学）に出場した。
- 令和元年度東北学生卓球連盟秋季リーグ戦が、８／28～30、福島県南相馬市スポーツセンターで開催され、東北１部リーグで団体準優勝した。
- 第86回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部予選大会）、８／28～30、福島県南相馬市スポーツセンター開催では、桂駿介さん（土木建築工学科２年／宮古工高）、大澤翔吾さん（土木建築工学科１年／東奥学園高）、上野武蔵さん（電気電子工学科４年／六ケ所高）が予選を通過、10／24～27に京都市で開催される全国大会への切符を手に入れた。
  シングルス出場：桂　駿介、大澤翔吾
  ダブルス出場：上野武蔵、桂　駿介
- 44回東北学生卓球連盟会長杯争奪卓球選手権大会が９／14～15、宮城県栗原市若柳総合体育館で開催、ダブルス大澤翔吾さん・米村京之臣（土木建築工学科１年／東奥学園高）さんが優勝、シングルスで米村京之臣さんが準優勝した。

ソフトテニス部インカレ出場

８月７日～９日岩手県盛岡市・北上市を会場に全日本学生ソフトテニス大会（インカレ）が開催され、蛯名魁さん（システム情報工学科２年／八戸工大一高）、中嶋翼さん（機械工学科１年／弘前実業高）がダブルスに出場した。蛯名さんはシングルスにも出場を果たした。今後の活躍に大いに期待したい。

男子２部北リーグ戦優勝！ バレーボール部

第55回東北バレーボール大学男女リーグ戦が９月21日～10月20日東北各地で開催され、本学バレーボール部が男子２部北リーグ戦で優勝した。最優秀選手賞に、チームのエースで主将の川嶋崚汰さん（機械工学科４年／五所川原工高（写真前列左））が選ばれた。リーグ戦終了後の入替戦で１部リーグ昇格を目指す部員に、エールを送る。

「八戸市90年の歩み」アプリ in 八戸博物館

システム情報工学科の学生・教職員が開発したシステムやアプリが、八戸市博物館で開催された「八戸市市制施行90周年記念特別展「八戸90年の歩み」において、７月13日から８月25日まで展示された。

この取り組みでは、昭和の八戸市を背景に自分の姿を合成・撮影できる「はちのへ写真館」（伊藤研究室）、八戸市に関する歴史クイズが楽しめる「クイズ八戸史！一問一答」（小玉研究室）、クイズ形式で自分に似た八戸の先人を探すことができる「はちのへ先人診断」（小久保研究室）の３点を開発、市民に公開された。撮影した写真や自分に似た先人のカードをお土産に持ち帰る微笑ましい市民の姿が見受けられた。

これらの展示物は、今年度から始まった本学と八戸市博物館との共同研究の成果であり、今後は次年度の夏季特別展や常設展示についても、連携する予定である。

はちのへ写真館

はちのへ先人診断

「八戸イカの日」協働プロジェクト

８月10日・11日第１回八戸イカの日フェスティバルが館鼻岸壁そばの「浜市場みなとっと」で開催され、学生が提案した企画や「イカ様プリント」「はちのへジュニアお魚検定」「子供が楽しいみなとっと塗り絵」などのワークショップが実施された。２日間延べ３千５百人の来場者で賑わい、前夜祭の８日から15日まで計８日の夜間、イカの町八戸を PR する「イカ手袋のライトアップ」が彩りを添えた。

このプロジェクトは、八戸市民のさかなが「イカ」に決定されたことを受け、感性デザイン学部創生デザイン学科が授業の一環として、八戸みなと漁業協同組合との協働事業により準備を進めてきたものである。７月には八戸みなと漁協関係者を招いて、本学メディアセンターにてフェスティバルのイベント企画案発表会が開催され、実施に至った。

新任教員紹介　今春、着任した先生方をご紹介します。

◎石山　武（いしやま　たけし）

・電気電子工学科、大学院工学研究科／教授
・出身地：千葉県
・専門分野：半導体物性
・電気電子工学科に着任しました石山武です。主に半導体への不純物添加や格子欠陥形成が電気特性や光学特性に与える影響について研究しております。最近は、特に半導体ナノ構造の作製と物性評価を研究テーマとして取り組んでおります。ただ今、研究室の実験装置の立ち上げと、後期に担当する授業科目の講義ノート作成に追われる日々を送っておりますが、今後、教育、研究活動を通して、学生達の能力を伸ばせるように頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◎星野　保（ほしの　たもつ）

・生命環境科学科、大学院工学研究科／教授
・出身地：東京都
・専門分野：菌学、微生物学
・寒冷地の菌類の生理生態を研究し、低温環境への適応過程を明らかにし、その産業への応用を目指している。本学では、これまで研究対象である雪腐病菌に加え、低温性菌類によるリンゴ黒星病菌の抑制、南部味噌玉熟成に関与する微生物、下北でカンタケと称されるきのこの実体から水生昆虫の腸内に寄生する菌類の種多様性など青森県の風土と関わる微生物に関する基礎から応用まで幅広い研究を学生たちと進めていきたいと考えている。

◎土屋　拓也（つちや　たくや）

・基礎教育研究センター、土木建築工学科／講師
・出身地：静岡県
・専門分野：一般相対性理論、数値解析
・私の専門は数学で、講義では主に微分積分や線形代数といった大学初学年次の基礎数学を行っています。研究対象はブラックホールなど宇宙物理学的な現象を記述する一般相対性理論と、様々な自然現象を調べるためによく用いられる数値解析で、主に数学をベースとしてこれらの研究を行っています。その他には過去の科学者の行った研究業績を調べ、どのように現在の科学技術が出来上がったのかを調べる科学史（主に数学者を対象とした数学史）にも興味を持っています。

◎西尾　洸毅（にしお　ひろき）

・土木建築工学科／助教
・出身地：宮城県
・専門分野：建築計画
・高校まで仙台市で過ごし、大学からは北海道室蘭工業大学にて建築・都市計画に関わる研究・社会活動に取り組んできました。研究活動では、人口減少が進む地方都市における消費者行動を調査し、より持続可能な住環境を形成するための方策を検討、社会活動では、地方都市の大学生と地域住民の連携による、地域の魅力を生かしたまちづくりを実践してきました。これまで培ってきた経験を生かし、地域の持つ魅力を吸収しながら研究・教育・社会活動を通して貢献していきたいと思っています。

サークル紹介

剣道部

剣道部は現在５名と少数精鋭で活動をしている。

練習は尚志館で行い、主に素振りや基本技、稽古などをメニューとしている。部活で力を入れているのは、技を極める為の稽古重視の練習である。 練習日程は、部員の希望を聞き最大限の期待に応えるように努めている。大学の大会は殆どが団体戦のため、去年は大会にはあまり出場できなかった。今年こそは、部員を集め大会に積極的に挑んでいきたい。

最後に、防具や竹刀などが揃っており気軽に活動出来るので、初心者でも剣道に少しでも興味がある方は、是非剣道部の門をたたいて欲しい。

部長　加藤　康佑（土木建築工学科２年／黒石商高）

～今年の公開講座より～
パソコン・スマホで環境測定してみよう！

本学では、大学を抜け出し、各地で公開講座を実施、子どもから大人まで楽しめる時代に即したテーマや地元に密着したテーマ展開でおこなっている。おもしろ電子工房～パソコン・スマホで環境測定してみよう！～もそのひとつだ。

８月７日、八戸市視聴覚センター・児童科学館を会場に開催し、小・中学生から大人まで20名ほどが参加した。環境センサーのデータを Bluetooth 接続や Wi-fi 接続機能を持ったマイコンで読み取りスマホに表示させるというもので、本講座で IoT （Internet of Things：ものが自らインターネットにつながる）を体験・実感してもらった。

参加者から、データがスマホに表示されるところが面白かった、参加した中学校教諭からは授業などで応用したいといった感想が聞かれた。

科学技術、研究交流の場に
～はちのへオープンイノベーション・プラットフォーム発足～

９月17日、はちのへオープンイノベーション・プラットフォーム（Hachinohe Open-innovation Platform 以下、HOP）発足記念講演会が八戸プラザホテルにて開催された。小嶋高良副会長から「人が集まって多いに語らう場は、新しい人の交流と事業のコラボレーションを生む。HOP に期待したい。」との挨拶に続き、本学高橋晋社会連携学術推進室次長より HOP 発足の趣旨説明が行われた。

招待講演として「イノベーティブな関係性を創る－ KNS、 Mebic の活動を通じて」と題し、メビック扇町所長堂野智史氏（写真上）よりご講演いただいた。堂野氏は、岩手県の岩手ネットワークシステム（INS） にあこがれ遠路関西から参加、自ら産学官民の有志とともに、2003年に関西ネットワークシステム（KNS ）というフラットな関係性に基づくインフォーマルコミュニティ活動を始め現在まで進めてこられた。

後半、本学長谷川明学長（写真下）より「八戸工業大学の地域連携活動」が紹介され、HOP の求めるものは、既成概念にとらわれない様々な職種の人と人のつながりが、イノベーティブな関係となり、人が抱える課題解決につなげていく活動へと発展していくと説明があり、終了後、HOP 発足に相応しい情報交流会が行われた。

システム情報工学科創設20 周年記念講演会開催

9月21日、学科創設20周年を記念し、本学多目的ホールにて「システム情報工学科創設20周年記念講演会」を開催した。講演会では、武山泰学科長による開会の挨拶（写真左）と学科における現在の取り組み等の紹介の後、システム情報工学科初代学科長の松坂知行名誉教授から「システム情報工学科創設までの思い出」（写真右）と題して学科がどのように創設されたか裏話も交えてご講演頂き、２代目学科長の苫米地宣裕名誉教授からは、「ゲームの科学」と題して、ゲームの歴史や AI との関係などについてご講演頂いた。講演会終了後は、グランドサンピア八戸において、システム情報工学科同窓会「うみねこ会」を開催し、ｅスポーツ大会などを行い、教職員・卒業生間の親睦を深めた。

武山学科長挨拶と学科紹介

松坂初代学科長による講演

文化会主催

彩才祭

と　き：11月９日（土）・10日（日）
両日とも10：30～17：30
ところ：ショッピングセンターラピア
２F ラピアホール

故増田陽一郎名誉教授へ叙位叙勲授与

3月1日、本学名誉教授増田陽一郎先生がご逝去された。長年にわたる先生の教育研究功労を讃えて、正五位・瑞宝中綬章が授与された。

故　増田陽一郎名誉教授

増田先生は、東北大学電気通信研究所を経て、昭和47年に本学に着任。電気電子工学系の主任や学科長、大学院工学研究科電子電気工学専攻主任など歴任された。

また、「多機能性強誘電体薄膜の新規な機能変換創出」を研究されており、学会や社会へ多大な貢献を果たし、学会活動を通して学生や若い研究者の育成に努められた。故増田陽一郎先生の御尽力に感謝するとともに、御功績を讃えて、御冥福をお祈りする。

学生の皆さんへ
～新しい修学支援制度が始まります～

2020年４月から、住民税非課税世帯またはそれに準ずる世帯の学生を対象に、授業料・入学金の免除や減額、給付型奨学金の支給が始まります。経済的な理由で学び続けることをあきらめないよう、学修意欲のある学生の「学び」を支えます。詳しくは、学生課までお問い合わせください。

参考：文部科学省
「高等教育の修学支援新制度」
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm

保護者懇談会

９月７日～15日にかけて、八戸市、弘前市、青森市、盛岡市、秋田市、仙台市の６会場で保護者懇談会が開催された。個人面談では学科の教員から修学状況や学生生活等について説明があり、相談コーナーも設けられた。

八戸会場（本学）では個人面談に加え、青森県商工労働部労政・能力開発課の菊地 忍氏を迎え就職講演会～あおもりで「働きたい」を応援します～が開催された。講演会には多くの保護者が出席し、熱心に耳を傾けて聴く姿から、就職に対する関心の高さがうかがえた。

お財布にやさしい自動販売機設置へ

９月から新しい自動販売機（飲料、食品）の設置と低料金化が実現した。本学はキャンパスが広く、スポーツ大会や各種試験、講習会会場に利用されることも多いため、自動販売機の飲料物が売切れることもあった。そこで学生の要望も踏まえ自動販売機の設置場所が再考され、同時に学生のお財布に少しでも優しくと値段も見直された。

体育館耐震工事、進行中

目下、体育館の耐震リニューアル工事が進んでいる。現在の体育館は1974年２月に完成、三陸はるか沖地震、東日本大震災など大きな地震にも耐えてきたが、45年の時を経て設備の老朽化も目立ってきた。今回のリニューアルでは、照明の LED 化やバリアフリー、式典対応の設備も計画されており、2020年２月の完工を目指している。

2020 年度入学試験日程

AO 入試クール		エントリーカード受付期間（必着）	面　談　日
第２クール		11月15日（金）～11月22日（金）	11月30日（土）
第３クール		１月27日（月）～１月31日（金）	２月10日（月）
第４クール		３月１日（日）～３月６日（金）	３月12日（木）
入　試　区　分		エントリーカード受付期間（必着）	面　談　日
特別入学試験	社会人	11月15日（金）～11月22日（金）	11月30日（土）
	外国人留学生		
	帰国生		
入　試　区　分		願書受付期間（必着）	試　験　日
推薦入学試験	指定校制	11月１日（金）～11月８日（金）	11月16日（土）
	公募制	11月25日（月）～12月11日（水）	12月16日（月）
一般入学試験	前期	１月６日（月）～１月24日（金）	２月４日（火）
	後期	２月17日（月）～２月28日（金）	３月６日（金）
センター利用入学試験	前期	１月６日（月）～１月28日（火）	2020年 1月18日（土）・1月19日（日）の大学入試センター試験
	中期	２月１日（土）～２月14日（金）	
	後期	３月１日（日）～３月19日（木）	

2019 年進学相談会日程

開催日	開催時間 開始	開催時間 終了	開催地	会　場
11月５日（火）	13：30	17：00	むつ市	むつ来さまい館
11月６日（水）	15：00	18：00	八戸市	八戸プラザアーバンホール
11月７日（木）	15：00	18：00	弘前市	ヒロロスクエア
11月12日（火）	14：00	18：00	八戸市	ユートリー
11月13日（水）	15：00	18：00	秋田市	アルヴェ
11月14日（木）	14：00	18：00	弘前市	弘前市民体育館
11月26日（火）	15：00	18：00	盛岡市	アイーナ

11 ～１月の主な日程

11／９・10	彩才祭
11／16	入試指定校制推薦
11／30	AO 第２クール・特別入学試験
12／28～１/ ５	年末・年始休業
１／７	授業開始
１／17	全学休講
１／18～19	大学入試センター試験
１／24～29	後期定期試験

えがお キラキラ ゆめ いっぱい!!

さくらようちえん

やっほー!!
すべりだいさいこう!

おべんとう
おいしそうでしょ。

やっぱり
おかあさんのおべんとう、
さいこうだな。

さくらまる、
しゅっぱつ!!

はだしですなあそび
だーいすき!

みてみて、くまさんが
どんぐりをたべているね。

~サッカーきょうしつ~

まけないぞー!!

デカルコマニー。
きれい。

マーブリング、どんな
もようができるかな。

びょーん、のびるのびる~

こむぎこねんど、
たのしいな。

みんなでそだてた
ラディッシュだよ!

なかよしさい

「うまくはいるかな……
それっ!」

「パカパカにちょうせんだ!!
きょうりゅうにへんしん!!」

「イッツアスモールワールドへ
ようこそ」

「みてみて!
ヨーヨーつれたよ～」

「あきかんつみ、
おちないように
そーっとね…」

9月28日（土）なかよし祭が開催された。開始前から園庭で遊ぶこども達の姿が見られたが、開始の放送が入るや一斉に受付に並び、もらったチケットを腕にかけ、好きなコーナーへ走っていった。園内は、日頃から取り組んできた絵やデザイン画、立体の製作物などをテーマに合わせ飾りつけした展示の部屋や、綿あめ、豚汁、お面や輪投げ、くじ引き、しゃぼん玉や水ヨーヨー、らくがき、スタンプラリーなどたくさんのコーナーがあり、終了時間まで思い思いのところで過ごしていた。来園した人を楽しませたいと準備を進めてきた教職員はもちろんのこと、役員の方々の思いが通じた一日となった。

卒園児からのメッセージ

Message

僕の原点

僕は、さくら幼稚園で職場体験をさせていただきました。８年ぶりの幼稚園は、懐かしさと驚きでいっぱいでした。変わらない園長先生の笑顔、裸足で走り回った芝生、今では「こんなに小さかったっけ？」と思ってしまうイスやトトロのオブジェ。そんなさくら幼稚園で僕は３年間過ごしました。

僕が幼稚園で好きだった事は、空箱などを使った物作りでした。外で遊ぶ以外は、たいてい物作りをしていたのを覚えています。この「物作り」が、僕の将来を決める第一歩となったんだなと僕は思っています。今、僕の将来の夢は、一級建築士になることです。そのために、たくさんの勉強をして、八戸高専に入ることが僕の今の目標です。

物を作ることの楽しさ、おもしろさを教えてくれたさくら幼稚園には、感謝の気持ちでいっぱいです。この恩を忘れず、必ず一級建築士になって恩返ししたいと思います。

大館中学校２年生
中村　優冴さん
（平成24年３月卒園）

ようちえんってこんなところ

～すいかわり大会～

「すいかおいしいね、さいこ～!!」

～年長 じゃが芋ほり～

「みてみて、おおきなじゃがいもみつけたよ」

～秋の遠足～

「ながいすべりだい、はやいはやーい!!」

とらんぽりん

～ある日の保育日誌～

満３歳いちご組　９月３日（火）

登園後、全員がままごと遊びを始めた。すると「今日は誕生パーティだよ」とケーキや食べ物を皿にのせていったＡちゃん。その言葉を聞いたＢ君が「ハッピバースディトゥーユー♪…」と歌い始め誕生会が始まった。一人が教師に食べ物を持ってくるとそれを見て周りの子も真似をし、教師とのやり取りを楽しむ姿が見られたが、友達同士のやりとりが少なかった。これから友達に興味を持ち、友達同士のかかわりが増えていってくれればと思った。

「カラートンネルからやっほ～!!」

年少組　８月30日（金）

給食でいつも野菜を食べようとしないＣちゃんが、「給食が終わったら水あそびをしますよ」の声に「水あそび？」と反応。給食を完食することができた。友達と水を掛け合い、歓声を上げて遊んでいた。そんな中、Ｄちゃんが怒った表情で教師をじっと見ていた。理由を聞くと、水が服にかかったことが嫌だったようで、「もう先生嫌い！遊んであげないから」の返事。次回は、水あそびの心地よさが感じられるように配慮したい。

年中組　９月５日（木）

教材として広告紙を準備しておいたところ、ほとんどの子がそれを使ってあそんでいた。細く巻いて棒状にする子や折ってベルトにする子、バッグにする子もいた。材料が増えると子どもたちの製作の幅が広がると改めて感じた。一学期よりも出来ることが増えたようで、工夫したり、こだわったりと楽しんで作る様子が多く見られた。これからは材料や道具の置き方、使い終わった後に片づけていくことも身に付けていけるよう伝えていきたい。

～年長 サマーフェスタ～
「みんなでいっしょにはなび、きれいだね」

年長組　８月26日（月）

暑すぎずちょうどよい気温で、じゃが芋掘りが出来た。土が硬く、表面だけを掘っていたので、力を入れて深く掘るように伝えた。次々出てくるじゃが芋に「顔と同じ位」「ほら、こんなにいっぱい」「かわいい！こんなに小さい芋もある」と大はしゃぎの子どもたち。大豊作の今年は、大きな芋が多く、重いと言いながらもにこにこ顔で家に持ち帰った。一つの種芋に一つだけなると思っていた子が多く、体験を通してじゃが芋のことを知ったようだ。

第61回

体育祭

８月30日、第61回体育祭が悪天候のため競技大会に変更となった。前日は、東運動公園陸上競技場で予行練習を行った。急遽校内での競技大会となったが、令和最初の競技大会は団体競技のドッジボールと長縄跳び（写真）の２種目だけでしたが雨を吹き飛ばすように各クラス一丸となり、気迫みなぎるプレーで熱戦が繰り広げられた。御来賓の出席と保護者観戦のもと一勝負ごとに歓喜や笑いが満ち溢れた。学年ごとドッジボールのトーナメントを行い、結果は３学年優勝機械コースA組、２位電気コース、２学年優勝電気コース、２位普通科特進コース、１学年優勝普通科A組、２位普通科B組となり、女子学年対抗は優勝３学年、２位２学年、３位１学年となった。長縄跳びは学年関係なしで順位をつけ、優勝３年普通科文系コース、２位２年公務員コース・１年普通科A組・１年電気コースとなった。

体験入学

8月17日、19日、20日の３日間、本校にて中学生の体験入学が行われた。

730名を超える生徒と、230名余りの保護者が参加し、成功裏に終えることができた。

普通科では４つのコースの説明とプログラムが紹介された。工業科では、各コースにおいて本校生による実演や説明があり、笑いで盛り上がる場面も見受けられた。

中学生は、どの体験にも興味を示し楽しかったと笑顔で本校を後にした。

部活動体験・見学会

８月18日、今年度第１回目の部活動体験見学会が開催された。今回は中学生180名の他、保護者も多数参加するなど本校の取り組みに対する関心の高さが感じられた。参加した中学生からは、「活気があって明るい雰囲気だった」、「強い高校の練習方法や方針が知ることができた」などの感想があり、体験終了の際は皆満足そうな表情を浮かべていた。

全国高等学校総合体育大会

感動は無限大 南部九州総体 2019

「響かせろ 我らの魂 南の空へ」

令和元年度全国高等学校総合体育大会には水泳部（男）、ウエイトリフティング部、レスリング部（男女）、ソフトテニス部（男女）、ボクシング部、自転車競技部が青森県代表として出場。熊本県玉名市総合体育館で行われたレスリング競技では、３名が出場。齊藤美姫さん（普通科２年／十和田東中）がフリースタイル68kg級で３位入賞を果たした。

第43回全国高等学校総合文化祭2019さが総文　「創造の羽を広げ 蒼天に舞え バルーンの如く」

◆将棋部門

第43回全国高等学校総合文化祭将棋部門大会が７月30日・31日の両日、佐賀県江北町にある「佐賀のへそ・ふれあい交流センターネイブル」にて行われた。本校から中村叶愛さん（普通科１年／江陽中）が女子個人戦に出場した。

スイス方式４回戦で行われた予選は２勝２敗により通過できなかったが、最終順位は92名中41位であり、１年生として立派な戦績であった。

◆美術・工芸部門

第43回全国高等学校総合文化祭美術・工芸部門（絵画）大会が７月28日から佐賀市で開催され、美術部清川竜乃介君（建築コース３年／三条中）が参加した。初日は開会式や自己紹介を兼ねたカードゲームと作品鑑賞会が行われた。２日目は大学教授等による研修講座があり、ファインアートとデザインの違いや、芸術で人を幸せにするのがデザインであることを学んだ。

全国大会というレベルの高い場で多くの作品を鑑賞し、新たな興味がわく大会であった。

ものづくりまちの「仕事」と「暮らし」発信事業『38KURASHIGOTOproject』

三八県民局主催で、三八地域の生徒対象にインターンシップ事業が行われた。この体験・調査活動を通じて高校生に地域の企業の魅力と地元就職のメリットを理解してもらい、地域への愛着の醸成や、将来三八地域で暮らしていきたいと考える若者の増加につなげることを目的としている。

７月25日、目的と成功の共通認識を図るため、デーリー東北ホールに参加者が一堂に会し、キックオフミーティングが開催された。本校は、アルバック東北(株)様、(株)セイシンハイテック様、東京鉄鋼(株)様と協働することになった。

７月29日、「引き出す・まとめる・伝える」スキルの習得を目標に、生徒対象の事前スキルアップ勉強会が開催された。

インターンシップを通じて先輩社員に話を聞き、企業の「魅力」と地元で暮らしていくことを選択した「決めて」を見つけ、それを自分たちで発信していくというプロジェクトが行われた。

第２回ドローンを活用した測量実習

ドローン測量は、従来の測量に比べ測定やデータ収集にかかる時間や費用を大幅に削減でき、建設系の仕事では必須となっている。この実習は、将来生徒たちが、現場で少しでも早く対応できるような技術を習得することを目的としている。

９月12日、ITH 合同会社のご協力により、ITHドローンフィールドで実施することができた。午前中は、測量の準備、ドローンに関する基礎知識、ドローンの操作、プログラミングによるドローン飛行により空撮を行った。午後は、空撮したデータを画像処理し、３Dのデータに落とし込むことを学んだ。当日は、デーリー東北新聞社の取材やRAB 青森放送の取材があり、実習の様子が、翌日の東奥日報ニュース（RAB 青森放送）で放送された。

八戸市総合防災訓練

９月１日、南郷カッコーの森エコーランドにて、八戸市総合防災訓練が行われ、本校消防クラブ員15名が参加した。生徒たちは、土砂災害での多数傷病者対応訓練のエキストラとして手当を受ける役割を担った。消防署員や病院関係者の迅速な対応や処置に、人命救助の大変さと命の尊さを感じとっていたようである。地域の方はもちろんのこと、自衛隊、警察、消防を始め、各団体の方々が大勢参加しての防災訓練は、本校生徒にとって大変貴重な体験となった。

令和元年度　１学年性教育講座

９月３日、苫米地レディースクリニック院長苫米地怜先生を本校にお招きし、「思春期の君たちへ～妊娠とSTIとLGBTについて～」というテーマで講演会を開催した。思春期の心と身体について、また性差別問題や性感染症など、詳しくお話をしていただいた。生徒からは「LGBT を理解し、もし身近にいたら差別することなく接していきたい」、「相手を思いやる気持ちを大切にしたいと思いました」という感想が多く見受けられた。

第43回全国高等学校総合文化祭2019さが総文参加

美術・工芸部門（7月28日・29日）

美術コース3年生の種市萌さん（十和田中）と小保内亜海さん（北稜中）が、佐賀市で開催された美術・工芸部門に参加した。青森県代表の7名に選出されたもので、本校の全国高総文の出場は13年連続となる。

各県から選ばれた作品は完成度が非常に高かった。1日目の交流会では全国展の作品を鑑賞して、お互いに意見を述べ合った。制作に対する思考を深める良い機会となった。2日目は佐賀西高等学校にて研修講座が行われた。種市さんは「目を描く」講座、小保内さんは「デザインでペンギンは空を飛べるのか」の講座に参加し、技術表現力向上に励んだ。各講座で、生徒の作品への丁寧な講評が行われ、充実した時間を過ごすことができたようである。

囲碁部門（7月27日・28日）

佐賀県立鹿島高校において行われた囲碁部門大会に、本校から川口明恵さん（カレッジコース3年／種市中）が団体戦の青森県選抜チーム三将として出場した。約250名の各都道府県代表が参加し、スイス方式で6回戦まで変則リーグ戦で行われた。青森県選抜チームの入賞はならなかったものの、全国大会で2勝を収めた。他校の選手とも交流も深め、棋力も大きく向上したものと思う。

また、7月22日・23日には「囲碁の甲子園」とも称される全国高校囲碁選手権大会が東京の日本棋院で行われ、青森県大会女子団体戦で優勝した本校女子の川口明恵さん、中村朋美さん（情報ビジネスコース3年／階上中）、泉山未希さん（カレッジコース3年／八戸一中）の3名が団体戦で出場した。

写真部門（7月28日～30日）

写真部門には、青森県代表のひとりとして渡邉有羽さん（美術コース3年／湊中）が参加した。

会場となった佐賀県嬉野市体育館には、全国から300点あまりの作品が展示され、撮影技術と視点の多様性を競った。残念ながら入賞は逃したが、全体講評会では審査員のプロカメラマン勝倉崚太氏（東京工芸大学芸術学部助教）から、作品「いもうとちゃん」の撮影構図とカメラアングルについて、お褒めの言葉をいただいた。勝倉氏の「シャッタータイミングとは、その時、その瞬間、その時代に、今、あなたにとって撮るべきもの」という言葉が印象的であった。全国各地の高校生達と交流できた有意義な大会であった。

外国人から見た日本文学の魅力

8月31日、本校で読書に関するワークショップが開かれた。恒例のビブリオバトルや読書会に希望者15名が参加し、お気に入りの本を紹介して感想を披露しながら交流を深めた。また、今年度は今別町の国際交流員でモンゴル出身のサンボードルジ・オユンビリグさんをお招きし、「外国人から見た日本文学の魅力と翻訳の仕事について」と題して講演会を開催した。オユンビリグさんは国際交流員として勤務する傍ら学生時代より吉本ばななをはじめとする小説のモンゴル語翻訳・出版を続けており、日本文学に出会った経緯やその魅力についてお話いただいた。講演会には約60名の生徒が参加し、世界へと広がる日本文学への関心を深めた。

男子硬式テニス部ダブルスで優勝

8月4日・5日、八戸市で行われた八戸市ジュニアテニス選手権大会18歳以下男子ダブルスにおいて、カレッジコースの佐々木満規君（2年／湊中）と小泉卓也君（1年／根城中）のペアが優勝した。佐々木満規君は18歳以下男子シングルスにおいても重ねて優勝した。

なお、9月14日～16日に実施された青森県新人テニス選手権大会において、同ペアが男子ダブルス競技第3位という結果を収めた。県大会を終えた二人は、「県でも優勝できるように、練習を重ねていきたい。」と意気込みを語った。

鮫地区観光ボランティア

8月4日・5日の2日間、今年で7度目となる蕪島・種差海岸観光ボランティアガイドを行った。この活動は八戸南高校の閉校に伴い本校が引き継いだ取り組みである。今年は90名の生徒が自作のスケッチブックやタブレット端末を片手にガイドを行い、八戸や三陸復興国立公園の魅力について紹介した。英語でのガイドに挑戦した班もあり、海外からの観光客にも喜んでもらうことができた。地域の文化や歴史を学び、多くの人たちとふれあい、貴重な体験となった2日間であった。

八戸工大SSP

８月１日・２日、「ＨＩＴ−ＳＳＰ（八戸工業大学サマー・サイエンス・プログラム）」が開催された。今年度のＳＳＰは工学部と感性デザイン学部から11講座が開講され、１年生のスーパーカレッジクラスと２年生のアクティブカレッジクラス理系の生徒42名がそれぞれの講座に分かれて参加した。参加した生徒達は、普段の高校生活では学ぶことのできない専門的知識を得たり、先端技術に触れたりすることで、充実したプログラムに手応えを感じていた。

市場での競争って何だろう？

独占禁止法教室開催

９月６日、本校ＳＣ・ＡＣクラス１年生と附属中学生を対象に、公正取引委員会東北事務所主催の独占禁止法教室が開催された。これは、八戸市のユートリーを主会場として行われた「１日公正取引委員会」の企画の一環として行われたもので、本校では初の試みである。

教室では、市場における競争の重要性、独占による弊害をグループワークや寸劇を通して学んだ。これまでに公正取引委員会が取り扱った具体的な事例も多く登場し、身近な事象にも独占禁止法が関わっていることが紹介され、生徒たちは熱心に聞き入っていた。参加した生徒たちは、独占禁止法の目的と公正取引委員会の役割を楽しみながら理解することができた、と話していた。

ＳＣ頭脳選手権

９月28日に全学年スーパーカレッジクラス合同で「ＳＣ頭脳選手権」と題してクイズ大会を行った。生徒は学年縦割りで班編成をし、他学年との交流をしながら難問に挑戦し、日頃の学習の成果を発揮した。１年生でも解ける問題が準備されていたため、学年の壁を越えてアイディアを出し合い、協力して問題と向き合った。生徒にはクイズ大会の景品として、豪華バーベキューセットがプレゼントされた。クイズの後、大学キャンプ場に場所を移し、美味しい肉を食べリフレッシュした。

南部せんべい商品開発

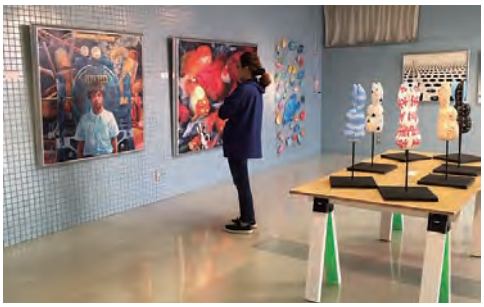
情報ビジネスコース２年生は、探究的な学習の時間として課題探求学習をおこなっている。今年度は「八戸圏域高等学校地域活動促進事業助成金」を活用した事業を展開し、てんぽせんべいをＰＲする新しい商品の開発に取り組んだ。市民団体「まちぐみ」の協力のもと、文化祭で「せカフェ」を出店。そこで、フレンチトースト風てんぽせんべいを販売した。他にも南部せんべいを使ったチョコレートバーやレアチーズケーキを販売した。また、国際交流事業として、八戸市の食文化であるてんぽせんべいをラペルーズ高校の生徒たちと一緒に作った。作業を共にすることで、活発に交流ができたようであった。

インターンシップ

７月29日～８月２日にかけ、情報ビジネスコース２年生が夏のインターンシップで就業体験を行った。今年度も、シーガルビューホテル、洋服の青山、スターバックスコーヒー、サーティワンアイスクリーム、カネイリなど様々な企業からの協力があった。生徒たちにとって、仕事に対する姿勢を、身をもって学べる貴重な機会であった。生徒は「会社が挨拶を大切にしていることが分かった」「日頃から、気配りができるようになりたい」などと述べていた。多くのことを学んだようである。

美術コース秀作展

第６回美術コース秀作展が、10月２日～10日、八戸市水産科学館マリエント４階展示コーナーで行われた。油絵、日本画、デザイン、立体など様々な表現技法で制作された美術コースの卒業生作品を中心に、歴代の優秀作品十数点が展示された。



二高・附中PTA　文部科学大臣賞受賞

～ 保護者も楽しむ活動が功を奏す ～

８月22日、第69回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会京都大会において本校ＰＴＡが優良ＰＴＡ文部科学大臣賞を受賞した。県内では平成28年度の青森高校以来２年ぶりの受賞となる。

本校ＰＴＡは平成29・30年度に東北高Ｐ連広報誌コンクール最優秀賞を連続受賞した。会長と広報委員会が中心となり、創意工夫を凝らして誰もが楽しめる紙面づくりを実現させてきた。今回の受賞は、現在のＰＴＡ活動はもちろん、これまでの活動も評価されたものであり、各種ＰＴＡ活動に携わってきた多くの方々の尽力の賜物である。

これからも本校ＰＴＡのモットーである「Ｐ（ぱっと）Ｔ（楽しく）Ａ（集まろう）」を合言葉に、保護者と教師が一体となって生徒と共に成長できるＰＴＡを創造していく決意を新たにした。

第1回校外学習

７月17日、第１回校外学習が行われ、「八戸市内の産業と防災を学ぶ」をテーマに、三菱製紙八戸工場、ダイハツスタジアム、ポータルミュージアムはっち、北日本造船株式会社豊洲工場の４ヶ所を見学した。

三菱製紙では、敷地の広大さ、それぞれの製造過程で作動する巨大な機械、出荷作業に使われているロボットの動きなどを見学し、生徒たちは興味津々で見入っていた。

ダイハツスタジアムでは、スタジアム自体が津波避難ビルとしての役割があることを、スタジアムの外観を見ながら学んだ。また、「はっち」では、実際に震災時の避難所としてこの建物が使われたことを学び、八戸の防災対策について考えた。

北日本造船では、分厚い鉄板が曲げられ、１隻の船に組み上げられていく工程を見学し、最後は、新造船のマストの上に登って見学させていただいた。どの見学地においても、非常に貴重な経験をすることができた。

中学校英語弁論大会第３位獲得

９月６日、八戸市総合教育センターにて、八戸市中学校英語弁論大会が開催された。本校からは沼田大地君（１年 / 五戸小）が創作の部に出場し、見事３位入賞を果たした。沼田君は、「道具」という視点から平和を考えるスピーチを書き上げ、「道具は人の生活の発展のために使われるべきものであり、決して戦争のために作ったり、使用したりするべきではない」と訴えた。

大会を終えた沼田君は、「他校の生徒のスピーチには実体験が多く入っていて、説得力があった。自分もこれからたくさんの経験を積んで、来年もスピーチコンテストに出場したい。」と抱負を述べた。

科学の甲子園ジュニア県大会

８月３日、青森県総合学校教育センターにて「科学の甲子園ジュニア県大会」が行われ、金澤虎彦君（２年／西園小）、相畑陽人君（１年／種差小）、中野昊汰君（１年／長者小）が出場し、筆記競技と実技競技を競い合った。

筆記競技では３人とも全力を出せたが、実技競技では各校ともに苦戦した。今回の実技競技は「回転の科学、目指せ転がしマスター」というタイトルで、瓶の中の錘をうまく利用して緩やかな坂道を下る競技で、最速と最遅の時間差を競ったが、半数近くのチームは坂の途中で止まってしまった。残念ながら本校チームも記録を作れなかったが、悔しさをバネに来年こそは入賞したいと語った。

～ご寄付のお願い～

○「八戸工業大学研究ブランディング事業活動支援金」

2017年度、本学は文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に採択され、地域の「安全・安心・快適な暮らしの創造」と「農林水産業・工業・観光業など産業・雇用の活性化」に貢献することを目的として、インフラ・地域づくりに関連する人材の育成と研究成果の社会実装も含めた総合的インフラ研究拠点の構築を目指し教育と研究に取り組んでおります。

この目的を達成し多くの成果を生み出すためには、地域の皆様からのご意見やご協力が必要です。主旨をご理解いただきご支援下さいますようよろしくお願いいたします。詳しくは、下記 HP をご覧ください。

https://www.hi-tech.ac.jp/branding/donation.html

理事会・評議員会

◇７月26 日理事会
- 学校法人八戸工業大学「教職員の採用」に関する件
- 学校法人八戸工業大学資産運用に関する件
- さくら幼稚園「園則（学費等）」変更に関する件
- 「教職員の子弟学費減免取扱規程」改正に関する件

◇９月13 日理事会・評議員会
- 「学校法人八戸工業大学寄附行為施行細則」の改正に関する件（理事会）
- 任期満了に伴う役員、評議員の改選に関する件（理事会・評議員会）

表 紙　さくら幼稚園　海浜保育～種差海岸

蒼穹
Hachinohe Institute of Technology Press SOUKYU　2019（令和元年）秋号　No.138
［発 行］学校法人八戸工業大学 http://www.hi-techaomori.jp　〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1 ダイヤルイン案内（0178）25-3111　FAX（0178）25-2769
八戸工業大学 http://www.hi-techac.jp 八戸工大一高 http://www.kodai1.ed.jp 八戸工大二高 http://www.kodai2-hed.jp 八戸工大二高附属中学校 http://fuchu.kodai2-hed.jp さくら幼稚園 https://sakura.hi-techaomori.jp